

参加各位

「馬場小室山遺跡フォーラム」第 87 回ワークショップ

【 復興の原動力！ パブリック・アーケオロジー2018 】

馬場小室山遺跡とまちづくり環境の「かわり」から、「山田湾文化」の復興パブリック・アーケオロジーへ

＜馬場小室山遺跡研究の新展開—縄文塚(「環提土塚」集落)の終焉から地域文化の解体にみる広域連動の解明—＞

知識・経験・思考・領域等にみられる現代的限界(建て前の×や+)からの知的解放(本音の÷や-)を目指して活動します！

新展開1 (ムロ1) ～ (ムロ5) は前回のレ ジュメ参照	「ムロさま」の 「限界領域」打破 (墓場の公共性にみ る墓式と葬式、及び 「人骨集積」の真相)	馬場小室山遺跡「第 51 号土壇」から展望する縄文時代の葬墓式と「土器社会論」—「ムロさま」の 「累積型改新土坑墓」と「積葬墓」から探る「追埋設型土器棺集積墓」への途— (ムロ6)「焼葬」(秋田県藤枝遺跡の頭蓋骨無し)、「焼人骨集積」(岩手県蔭内遺跡)、「人骨集積」 (愛知県保美貝塚)と抜歯、そして「髑髏信仰」(長野県宮遺跡の「積葬墓」) (ムロ7)「人骨集積」と抜歯は＜犬歯＞VS＜犬歯+第1小臼歯＞の2系列が顕在化 (ムロ8予告)「人骨集積」から「土器集積」(祭式と葬式の統合)、そして「土器棺集積」へ
新展開2 (オム1) ～ (オム2) は前回のレ ジュメ参照	「オムちゃん」と 「ムロさま」との 「限界知識」打破	土偶と土面／顔面付土版／人面文土器等の関係、そして容器形土偶／顔壺へ (オム3)「仮面土偶」の発達と「突起土偶」、そして山形土偶の形成 (オム4)印旛沼と仙台湾、そして山田湾まで繋ぐ人面把手の意義 (オム5)「髑髏信仰」と「亀ヶ岡型変相イデオロギー」、そして「ムロさま」 (オム6予告)「髑髏信仰」は「ムロさま」から容器形土偶や顔壺の土坑墓へ
新展開3 (シオ1) ～ (シオ3) は前回のレ ジュメ参照	「シオ(塩)もん」の 「限界経験」打破 縄文時代の製塩土 器は「採鹹・せん ごう土器」が真相！ 固形塩の物流では なく、「大形魚塩蔵 品」・「汽水系塩 煮品」に留まらず、 濃縮海水を内陸 で希釈する「淡水 魚(含む特産ウナ ギ)塩煮」の普及 か？	「製塩土器」の確立から製塩遺跡の操業へ、爆発的普及の晩期社会と「定住制」の定着 (シオ4)下布田遺跡の「製塩土器」在地性は古鬼怒湾型変遷との乖離！／枯れたアマモを特 定の場所に集めて乾燥させる「塩草場」の存在、及び天日と地熱(熱砂)利用の採 鹹・せんごう工程に相応しい「製塩土器」鉢形態の確立 (シオ5)宇都宮市刈沼遺跡からは寺野東遺跡よりも多数の「製塩土器」が検出し、在地で淡水 魚の「塩煮」が浮上。鬼怒川流域の口縁部形態は下布田遺跡とは大きく異なり、古 鬼怒湾型変遷の1系列である口縁部水平ヘラカットが定着 (シオ6)三陸北部における「製塩土器」の年代と系統(1)久慈市大芦Ⅰ遺跡の長胴深鉢形態 と僅かな出土点数に注目した「採鹹・せんごう土器」の提唱 (シオ7)六十軒遺跡の「製塩土器」二者(古鬼怒湾ケズリ系列VS無文ナデ系列)の意義 (シオ8)古鬼怒湾で後期から発達するウナギのブツ切りによる「ウナギ鍋」は塩煮／「採鹹・ せんごう土器」の定着に果たす古鬼怒湾ウナギ塩煮の役割に注目！
新展開4	「タマきみ(君)」の 「限界思考」打破	ヒスイ製勾玉・小玉の晩期流通(関東各地域拠点でも製作)と弥生時代中期中葉「再葬壺棺 墓」への流通実態(上越周辺北信經由)解明 (タマ1)熊谷市飯塚南遺跡の土坑墓出土ヒスイ製勾玉と飯塚遺跡群 (タマ2)長野県坂城町保地遺跡の抜歯人骨とヒスイ製垂飾品の年代【『利根川』39】

弥生時代の大別(関東地方)	中区分	武蔵方面の細別編年(1・2・3式等にはディープ・クロ/ロー内包)	「見沼文化」等の主なできごと
3 世紀の中頃？ 【 後期 】 紀元0年頃	【後期末葉】 【後期後葉】 【後期中葉】 【後期前葉】	(前野町式)(前野兎谷第3地点)／吉ヶ谷3式(中耕32号周溝墓) (久ヶ原3式)／(井沼方9号)→(北通57住)／吉ヶ谷2式 (久ヶ原2式)／下戸塚2式／吉ヶ谷1式 (久ヶ原1式)／下戸塚1式(菊川系受容・変容)／岩鼻式	★芝川を自然堤防が封鎖し、河川交流ルート断絶 ★入間川の自然堤防と「見沼文化」に環濠集落展開 下戸塚2式前後に【見沼シャモット弥生】の出現 武蔵野台地は東海の菊川式系土器群の受容と変容
【 中期 】 BC3世紀頃	【中期末葉】 【中期後葉】 【中期中葉】 【中期前葉】	(宮ノ台3式)／用土・平式→(+) (宮ノ台1式→2式)／統上敷免(新)式→北島式→前中西式 上敷免式→出流原式→池上式→小敷田式→上敷免(新)式 岩櫃山式	冷涼化？遺跡形成が希薄化 ★「見沼文化」に環濠集落と地域文化の形成 荒川新扇状地周辺に池上式から農業集落の展開 前葉～中葉前半は再葬壺棺墓の定着
【 前期 】 BC4世紀頃	【前期末葉】 【前期後葉】	四十坂式／(東関東:荒海4式→殿内1式) 如来堂式／(東関東:荒海3式)	関東地方における再葬土器棺墓の出現 ★埼玉平野における遺跡形成が希薄な時代！

1.【地域とパブリック・アーケオロジーの底力】：各地域における自然の恵みと基層文化の形成を考えよう！

1-1.【「見沼文化」とお花見】：見沼田んぼ西縁のお花見名所は、弥生時代後期環濠集落の回廊！

- ・浦和博物館にて見沼田んぼの歴史と考古遺物について学びます。
- ・続いて見沼田んぼ西縁に降り、**北宿遺跡**（環濠集落）→**馬場北遺跡**（環濠集落）の直下に咲き誇った桜を愛で、西縁の溺れ谷から台地にかかる斜面部から東への平坦部が馬場北遺跡となります。
- ・環濠集落の立地を確認した後は、目の前のバス通りを南に三室中学校へと向かうと、その先が**馬場小室山遺跡松木地点**（弥生時代後期集落）となります。この地点は馬場小室山遺跡の範囲とされていますが、集落としては松木遺跡の続きとなります。住居址から出土した土器群は【**見沼シャモット弥生**】の典型です。

1-2.【古鬼怒湾とパブリック・アーケオロジー】：今年から「土器型式」ワークショップを充実させる計画です！

- ・今回は時間が限られますので、旧石下町崎房遺跡から採集された適量の土器群を分類します。

1-3.【「山田湾まるごとスクール」】：山田湾に学ぶ復興の原点は郷土を誇れる心！

- ・山田史談会の川端弘行会長に今年の「山田湾まるごとスクール」の実施について伺いをしました。仮設住宅は3月末に閉鎖、6月撤去の計画で進められ、高台移転等に遅れている方々は当面別な仮設住宅に移ったそうです。集会場は6月撤去でなくなるため、別な仮設住宅の集会場を検討するようです。具体的な日程につきましては第88回ワークショップ（5/4）で決定します。
- ・川端会長には山田湾について教えて頂きたいことが沢山ありますが、今夏はサケの不漁問題（岩手日報では「鮭の乱」として特集）とコンブ漁についての話題をお願いしたので、乞うご期待！
- ・北浜老人クラブとの交流では沢田Ⅰ遺跡の「縄文（原体）の話」と実習、あるいはプラ板も検討したい。

(1)サケとコンブを対象とする「山田湾の水産考古学」

- ・前回は水産関係者から新たなパブリック・アーケオロジーとして**環境変動と水産資源変動との関係を検討する「水産考古学」**が提起されており、しかも大変面白い研究ですので具体的に紹介しました。これを受けて「**山田湾の水産考古学**」という枠組みを開設し、①**トド・イルカなどの海獣猟**、②**山内清男の「サケ・マス論」の真相**、③**コンブ漁**について検討していきます。
- ・先ずは船越半島の川半貝塚人や畠中遺跡人は昆布を採集できたか、考えましょう。

(2)「末期古墳群」からアプローチする「山田湾の蝦夷考古学」

- ・房の沢Ⅳ遺跡の「末期古墳群」については五十嵐聡江さんが研究しておりますが、8世紀の蝦夷の動向の中で山田湾の突出した墳墓形成は威容で異様です。コンブ漁と海運は文献に記載されていますが、新たに房の沢古墳群の分析から、④**馬飼**い、⑤**蝦夷製鉄**という陸運による経済基盤が描定されます。特に鉄器と製鉄の研究は山田湾の古代史解明の要となりますので、共々学びたいと思います。

1-4.【奥東京湾とパブリック・アーケオロジー】：伊奈町本上遺跡の「安行3d式」からのメッセージ

- ・前回は鴨志田隼司さんから『伊奈町埋蔵文化財調査報告書 第3集 本上遺跡(第2次調査)埋蔵文化財調査報告』(伊奈町教育委員会、2017)と企画展を中心に本上遺跡全体の解説がありました。昭和以降の調査も未報告が多く、詳細は今後に俟ちますが、先般の第2次調査地点は境内の外側東域で、住居址廃絶年代は主として「**加曾利B式**」から「**安行3c式**」のようです。齋藤弘道さんが以前採集された「安行3d式」の地点(拝殿裏)とは異なることが分布上の重要な問題点です。報告書については調査に協力しました宅間清公さんから参加者に報告書が無償配布されたこともあり、一同大いに勉強になりました。
- ・**遺跡の性格を知るためにも「安行3d式」の主体分布**を考察しましょう。報告書の地形図を見ると氷川神社の裏(北)側には緩やかな東へと延びる谷が形成されています。本上遺跡の標高16m前後はこの氷川神社境内までとなりますので、その北側の谷は南東に向かう綾瀬川低地へのアプローチと考えられます。更にこの谷の北側も広く本上遺跡の範囲としています。晩期は集落を縮小しますので中後期でしょうか？
- ・さて、齋藤弘道さんが採集した「安行3d式」は何を語るのでしょうか、この謎は鴨志田隼司さんが持ち込んだ吉田格さんの「埼玉県小室村氷川神社遺跡」という「境内」の戦後間もない昭和22年の発掘報告で謎が解けます。「**境内**」からは「**安行3d式**」が主体的に検出されるのです。そしてこの「**境内**」こそが集落の終焉となりそうですので、特に中央窪地との関係も含め、「境内」の「**地中の秘密**」(どのような施設が形成されたか)を楽しみにしたいと思います。

1-5.【東京湾とパブリック・アーケオロジー】：千葉市大膳野南貝塚の「b型」への訂正

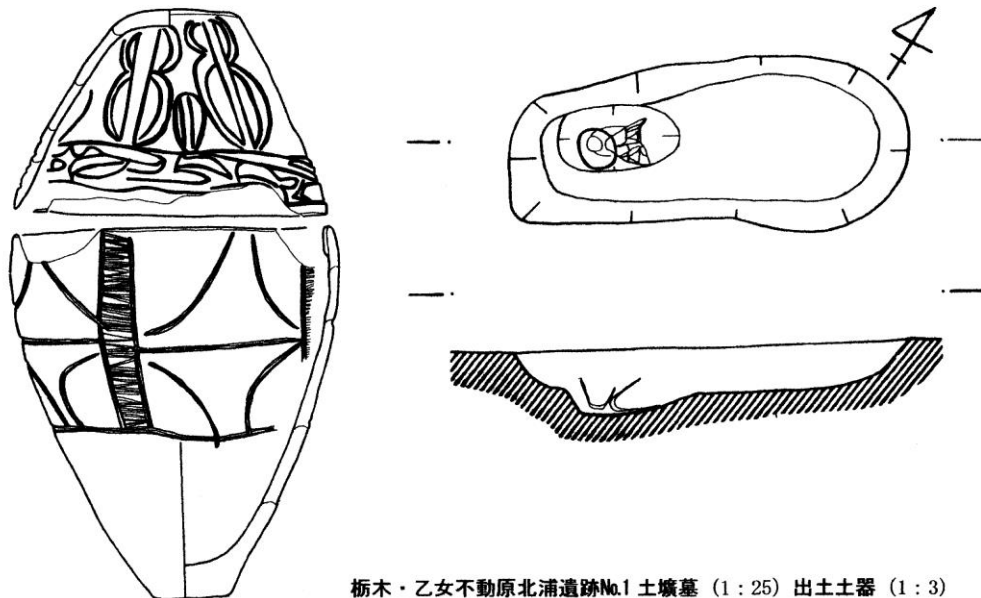
- ・前回の訂正です。念のため確認したところ、大膳野(南)貝塚は**酒詰仲男氏が貝塚の分類で「b型」の標識例**としていますので、ここに謹んで訂正します。

近年報告された大膳野南貝塚からはマッコウクジラの肋骨製骨刀が「堀之内1式」の住居址から出土しており、打ち上げクジラに対して「大木10式」の田の浜貝塚と共通する意識が見られ、興味深いです。

2. 「ムロさま」の頃の再葬墓について：縄文時代晩期中葉は再葬墓の上昇期！

・馬場小室山遺跡「第51号土壇」の「人面文土器」を再葬土器棺と考えています。その立場から晩期中葉の遺跡を見直しますと西広貝塚の「鉢被り頭蓋骨」のように色々面白い現象が発見できます。

今回は骨粉の確認から納骨容器の埋納が数個体確認されていることで著名な小山市乙女不動北浦遺跡の晩期中葉の再葬墓を追認します。以下の出典は 渡辺 新(2012)「顔面付土版の標準(試案)」『大久保忠和考古学振興基金 2008 年度奨励研究 B-2 研究成果 I 千葉の土偶 研究集会資料集』、千葉縄文研究会 となります。



栃木・乙女不動原北浦遺跡No1 土壇墓 (1:25) 出土土器 (1:3)

図 18 土版文様と土器文様

土版文様の一典型、正中画対称三角形区交互配置構成は「姥山式」の土器文様に由来すると考えられる〔永峯 1977〕。土版文様では底辺対向三角形区に縄文は充填されないから、「姥山Ⅱ式」土器の波底部を中央に見た構成になっている。

栃木・乙女不動原北浦遺跡には、駒寄土版表面体部の重弧線文と共通する文様の土器がある。土器は墓坑内に横転した状態で「姥山式」甕類直前頃の土器と伴に出土。「姥山式」土器には人骨粉が入っていて、重弧線文土器は蓋として用いられる。前者が正位、後者が逆位の状態で墓坑内に据えられていたとみられ、重弧線文の年代を知る好資料となる。ちなみに、北浦遺跡では長方形の土坑墓がおおよそ 20 基群集し、その内 2/3 が大人伸展葬可能な規模、1/3 が幼小児伸展葬の規模にあり、各墓坑内からは完形・略完形の土器が出土する。No1 土壇墓は小児伸展葬規模にありながら、そこから出土する骨粉入土器は口径 13.5cm・高さ 15.6cm で改葬ないし再葬であったことを示す。初葬と改・再葬が同所であった様子を見る。

3. 【その他情報交換など】：自由な意見交換とワイン・アーケオロジー

3-1. 今後の予定

- (1) 3/31(土)～4/8(日) 井山絃文グループの「ーing NOWー小品展」(於:柳沢画廊)のご案内
4/ 3(火)～4/8(日) 井山絃文グループの「ーing NOWー展No. 5」(於:浦和美術館)のご案内

- (2) 「見沼たんぼ見どころガイド2018」発行予定(4月中旬配布)。

・昨年の縄文時代に続いて、埼玉大学有機農業研究会による「弥生時代から見る！見沼」の魅力が掲載予定。乞うご期待！

- (3) 5/4(みどりの日)は「馬場小室山遺跡のクリーンナップと青空考古学教室」(チラシ配布中！)

・青空考古学教室は毎年好評を博しています。今年はリピーターや関心の強い方々向けに馬場小室山遺跡にかかわらず、個々人が疑問に思っていることなど個別の質問に対応する時間を設け、コミュニケーションの場を充実したいと思います。

3-2. その他

以上